

令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立糀谷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・1学年では基礎・活用ともに目標値を越えることができた。また3学年でも教科全体・基礎に関しては目標値を越えることができた。
- ・ALT とのやり取り、スピーチや音読などパフォーマンステストに取り組むことで、場面に応じた表現を定着させることができた。
- ・既習言語を使ったオーラルイントロダクションを取り入れることで、リスニングの苦手意識を減らし、わからなくても聞こうとする姿勢を養うことができた。

(2) 課題

- ・語形、語法の知識理解が定着しておらず「書くこと」(2年生では「場面に応じて書く英作文」、3年生では「単語の並べかえによる作文や3文以上の英作文」)への苦手意識がある。語形、語法の知識理解を定着させ、書こうとする姿勢を養う必要がある。
- ・「読むこと」への苦手意識があるため、さまざまな英文の読み取りや長文の読み取りは不十分である。語彙の知識理解を定着させ、粘り強く読み進めようとする姿勢を養うこと必要である。
- ・語順や語法など基本的な文法事項および語彙の定着を継続して行う必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	聞くこと、読むこと、書くこと、の全ての領域で目標値を上回っている。その中で英作文(書くこと)の分野を伸ばすことが今後の課題である。		
第2学年	聞くこと、読むこと、書くこと、の全ての領域で目標値を上回っている。その中で日常会話の理解(聞くこと)の分野を伸ばすことが今後の課題である。	聞くこと、読むこと、書くこと、の全ての領域で目標値を下回っている。その中でも書くことに関する分野を伸ばしていくことが必要である。	
第3学年	聞くこと、読むこと、書くこと、の全ての領域で目標値を上回っている。その中で、場面に応じて書く英作文の分野を伸ばすことが今後の課題である。	聞くこと、読むこと、書くこと、の全ての領域で目標値を上回っている。その中で英文の読み取り分野を伸ばすことが今後の課題である。	聞くこと、読むこと、書くこと、の全ての領域で目標値を上回っている。今後も全領域でバランスよく伸ばしていくことが課題である。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語の意味やアルファベットの読み書きなどの基本的な知識・技能は定着している。	英作文は目標値とほぼ同等程度か、下回っているものもあるので、基礎基本を活用できる力をつける必要がある。	目標値とほぼ同等程度である。基礎基本は定着しているので、それを活用する力をつける必要がある。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語法・語彙など基本的な知識・技能は定着している。	場面に応じて書く英作文が目標値を下回っている。基礎基本を活用できる力をつける必要がある。	目標値を下回り、基礎基本の定着が不十分である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
語形・語法・語彙など基本的な知識・技能は定着している。	長文の読み取りは目標値とほぼ同等程度なので、基礎基本を活用できる力をつける必要がある。	目標値を上回っている。基礎基本の定着およびその活用を今後も継続して行う。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識・技能を活用する力をつけるために、問題演習を充実させる。単元ごとの小テストを実施していく。	基礎基本を活用する力をつけるための言語活動やアクティビティを充実させていく。	単元ごとに小テストを行い、自らの学習状況を把握することで、学習の調整力をつけさせる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識・技能を活用する力をつけるために、問題演習を充実させる。単元ごとの小テストを実施していく。	正しい語順や場面に応じた表現を定着させるために、パフォーマンステストや言語活動を充実させていく。	単元ごとに小テストを行い、自らの学習状況を把握することで、学習の調整力をつけさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識・技能を活用する力をつけるために、問題演習を充実させる。単元ごとの小テストを実施していく。	長文の概要をつかむ読み取りの力をつけるために、ワークシートを工夫して、読解練習を充実させていく。	単元ごとに小テストを行い、自らの学習状況を把握することで、学習の調整力をつけさせる。